

実践における保育の質 —保育者の言葉がけとこどもの反応を行動分析的視点から分析する— (中間報告)

駒沢女子短期大学 川 口 めぐみ

The Quality of Childcare and Education in Practical Childcare : Behavioral analysis of children's reactions and the words of childcare workers

Komazawa Women's Junior College, KAWAGUCHI, Megumi

要 約

乳幼児期は、認知、感情、社会性等、著しい発達を迎える非常に重要な時期である。そのため、この時期に出会う大人の言動は、その後のこどもの行動や学習に大きな影響を与える。本研究では、保育者の言葉を刺激とし、その後のこどもの反応について行動分析的に検討を行い、保育における言葉とこどもの行動の関連について明らかにしていく。中間報告として、全国の保育経験者に実施した質問紙調査の結果の一部を報告する。調査の結果、保育者の雰囲気やこどもへの気づきの促しは保育において重要なワードだが、それ以上に、保育者はこどもにかける言葉の内容そのものの影響力を認識し、こどもとかかわっていることが明らかとなった。保育の質が叫ばれている昨今、こどものよりよい発達を促すために、保育者の言葉という刺激について検討していく必要性を示唆する。

【キー・ワード】 保育の質、言葉、行動分析

Abstract

Infancy is an extremely crucial period for children when significant development in areas such as cognition, emotion, and sociability takes place. Therefore, the speech and actions of the adults who infants meet during this period have a significant impact on their behavior and learning later in life. In this study, a behavioral analysis was conducted on the children's reactions using the words of childcare workers as stimuli. A portion of the results of a questionnaire survey, conducted on those with an experience of early childhood care across Japan, was used to prepare an interim report. The research results show that the childcare workers are aware of the impact of the content of their words on the children, and interact with the children with this awareness. This study suggests the need to examine the stimuli, that is, the adult's words, to promote better development of children and their care.

【Key words】 Quality of childcare and education, words, behavioral analysis

目 的

乳幼児期は、認知、感情、社会性等、著しい発達を迎え、人格形成の基礎を培う非常に重要な時期である。そのため、この時期の子どもたちと時を共にする保育者の役割は大きく、その質が問われるのは当然のことと言える。保育の質は、文化や社会制度、地域といった広い概念から、各園のカリキュラムと評価、子どもを取り巻くすべての環境、そして保育者の資質やスキルなど (Melhuish, 2001; Moss, 2007) すべてを含む。質の高い保育は子どものその後の発達にポジティブな影響を与えることから (Vandel, Belsky, Burchinal, Steinberg, Vandergrift, & NICHD Early Child Care Research Network, 2010)、我が国で 2015 年度に施行された「子ども・子育て支援新制度」においても良質な保育の重要性が再認識されている。Laevers (1994) は、Child Involvement Scale (CIS) という質尺度を作成し、保育者と子どもの相互的にかかわりを「過程の質」のひとつとし、大人の感性や奨励するかわりを挙げている。また、Pianta, La Paro & Hamre (2008) によって作成された尺度 (Classroom Assessment Scoring System: CLASS) は、保育者のかかわり方をそのものを評価対象としており、「情動的サポート領域」の下位項目には、CIS と同様の感性、保育者の雰囲気などが挙げられている。このように、保育者の言動は子どもの発達や学習に大きな影響を与える重要な専門性のひとつであると言える。

保育者が子ども個人もしくは全体とかわろうとするとき、その大半は言語的にかかわりである。ポジティブな行動をとった子どもを認めポジティブな言葉をかければ、子どもはその行為を取り入れ、その後その行為は増加するだろう。保育の中にあふれている保育者の言葉は、子どもの学習を形成する重要な刺激である。しかしながら、保育者の専門性について問うとき、発達理解や実践力、協働や省察的思考、共感的態度などのワードは多く見られるが、保育者の言葉について検討した研究はほとんどない。本研究では、保育者の言葉と子どもの行動の関連について行動分析的に検討し、保育の専門性の一つとして、子どもの学習にふさわしい刺激 (言葉) を選択する知識とスキルの重要性について提案する。本稿 (中間報告) では、保育者の言葉がけについて全国の保育経験者に質問紙調査を実施した結果の一部を報告する。

方 法

対象者 全国の保育経験者 86 名 (平均年齢 36.3 歳、保育経験歴平均 9.9 年)。

手続き 調査対象者には事前に調査の目的と内容、個人情報保護等について説明し、承諾した者のみ質問紙を郵送し協力を得た。郵送した書面においても同様の説明を行い、改めて調査協力を依頼し、承諾した者のみ回答した。回答者は無記名で返送するよう指示し、回収率は 100% だった。

調査内容 フェイスシートでは、年齢、保育経験年数、実習生指導経験の有無と人数、実習生に指導することの多い項目について尋ねた。質問項目は 5 項目で、保育の専門性や質について尋ねる項目と

保育者の言葉がこどもに及ぼす影響について尋ねる項目は自由記述式とし、こどもとかかわる場面で気をつけていること（12項目）、言葉かけるときに気をつけていること（6項目）について、上位から1位、2位、3位…と順位をつけてもらう順位法（完備型ブロック計画）でそれぞれ回答を求めた。本稿では、順位法で得た結果について考察を行う。

結果と考察

こどもとかかわる場面で気をつけていることを順位法で尋ねた結果（有効回答数 69名：平均年齢 35.9±12.5歳、保育経験年数平均 9.3±8.9年）、Kendallの一致性係数は0.25で回答の一致性は低いが、 χ^2 検定の結果、有意差が認められた（ $\chi^2(11)=186.31, p<.001$ ）。また、こどもに言葉かけるときに気をつけていることを順位法で尋ねた結果（有効回答数 69名：平均年齢 36.6±12.8歳、保育経験年数平均 9.6±8.8年）、Kendallの一致性係数は0.42で回答の一致性はやや高く、 χ^2 検定の結果、有意差が認められた（ $\chi^2(5)=147.23, p<.001$ ）。

CISによる質尺度では、大人の感性や奨励するかわりが評価の対象となり、また、CLASSでも感性や保育者の雰囲気などが挙げられている。本研究結果では、保育者がこどもとかかわるときに気をつけていることの上位に上がったのは、表情、共感性、こどもの主体性、言葉かけ内容であった。保育者の雰囲気や対応の一貫性、感性も保育において非常に重要なワードだが、現場の保育者はそれ以上に意識して実践している項目は異なっていることが明らかとなった。また、こどもに言葉かけるときに気をつけていることの上位には、口調、言葉の内容そのものが上がった（表1）。

保育の専門性や保育の質を問うとき、保育者の言葉の重要性を追求した研究は少ない中、多くの保育者は、こどもにかけ言葉の重要性を理解し保育している傾向にあることがわかった。保育の質を高めるためには、実践の場で明らかとなっている事項を客観的な理論につなげ、また実践に落とししていくという循環作業が必要である。現場の保育者は、こどもにかけ言葉は大きな意味を持つことを知っており、言葉の内容そのものに配慮している。このことから、こどもの発達を支える保育において「言葉がけ」は重要なワードであることを示唆する。

今後の研究では、保育者の言葉がけ（刺激）によってこどもの反応や行動がどのように変化していくのかを行動分析的に検討し、刺激とこどもの反応形成について可視化しながら、保育の質を高めるための具体的方法について提案していく。

表1 順位法による平均スコア

かかわりの中での配慮(順位)		言葉がけにおける配慮(順位)	
表情	3.73	雰囲気	6.99
共感性	4.43	丁寧さ	7.49
こどもの主体性	4.68	気づきの促し	7.88
言葉かけ内容	4.91	応答性	8.38
目線	6	姿勢の高さ	8.46
口調	6.01	対応の一貫性	9.01
		口調	2.49
		言葉の内容そのもの	2.63
		目線	2.87
		雰囲気	3.4
		話すスピード	3.87
		イントネーション	5.74

引用文献

- Laevers, F. (Ed.) (1994). The Leuven Involvement Scale for young children. Center for Experiential Education, Leuven.
- Melhuish, E. (2001). The quest for quality in early day care and preschool experience continues. *International Journal of Behavioral Development*, 25 (1), 1-6.
- Moss, P. (2007). Bringing politics into the nursery: Early childhood education as a democratic practice. *European Early Childhood Education Research Journal*, 15(1), 5-20.
- Vandel, D. L., Belsky, U., Burchinal, M., Steinberg, L., Vandergrift, N., & NICHD Early Child Care Research Network. (2010). Do effects of early child care extend to age 15 years? Results from the NICHD Study of Early Child Care and Youth Development. *Child Development*, 81, 737-756.
- Pianta, R., La Paro, K. M., & Hamre, B. K. (2008). Classroom Assessment Scoring System: Manual Pre-K, Paul. H. Brookes.

謝 辞

本研究は、座間子どもの家保育園、藤学園藤幼稚園、認定こども園新琴似幼稚園、大原学園姫路校、駒澤学園付属こまざわ幼稚園をはじめ、札幌市内、栃木県内、関東圏内、関西圏内の保育経験者のみなさまに多大なるご協力を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。